

西小倉めぐみ教会通信

発行者 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会
〒611-0042 京都府宇治市小倉町西浦33-36
Tel&FAX 0774-20-3071 <http://www.n-megumi.com/>

「一つ」と「部分」

牧師 倉橋 剛

主の御名を賛美します。多くの教会や信徒の方々のお祈り、そして尊いご献金をいただき私たちの小さな教会が神さまのご用のために働かせていただだけ、本当に感謝しております。

最近車による大事故が相次ぎ悲惨な状況が報じられる度に、心痛む思いです。その中でも京都の祇園で起こった出来事については、まだまだ解明されていない事が多いですが、一つ懸念していることがあります。重大な事故であり多くの犠牲者が出ていることはまさに現実であり、起きてはならない出来事でした。ただ、この運転手に関して「てんかん」の持病があったことで報道が一人歩きしている部分があるのも事実です。当教会に関わる方の中には、てんかんや心の病の方、介護をしている人、中でも外出のお手伝いをするガイドヘルパーの方などもおられます。それでなくても、外出しづらい方々が更に外へ出られなくなるのでは、ととても心配しています。

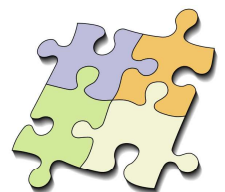
今までのように何か大きな事件が起こった後に、起こした本人が精神疾患を有している方である場合(通院歴があるというだけでも)同じような現象が見られます。当教会で毎週開いているひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」でも、集う青年達からは、社会に出ていこうとしても単純にひきこもりは、怠け者だ、弱い人間だ、何を考えてるのかわからない怖い存在だ、などと思われているのではないかと不安の声が上がります。一人ずつが抱えている複雑な事情や苦しさに耳を傾ける以前に「個」を大切にせず「みんな一緒」のような扱いをされ、誤解や偏見からくる差別を受けることも少なくありません。そこには、さらに引きこもらざるをえなくなるという悪循環が起っています。それが現場の生の声です。

「同じ」と「一つ」という言葉がよく使われますが、「同じ」には強制力、同化の力、排除、管理、妥協が働きます。でも、「一つ」には赦しと理解が必要です。赦すためには、相手を一人の人間として尊重しその人間性を認める必要があります。

聖書の中でパウロは人間の体を比喻にして、体は一つの部分ではなく多くの部分からなっていると説明します。「多くの部分があっても一つの体なのです。」違っている一人一人は、かけがえのない存在です。よく例にあげられますが、ちょうどジグソーパズルのように例えば、すみっこの小さいピースであっても、その一枚がなければ全体の作品は決して完成しないのです。人は皆等しく尊重されなければなりません。そのためにも私たちはお互いを少しでも理解しあえるよう出会いを大切に、相手の方の思いを傾聴していきたいと思います。

私たちは、生まれたときから色々な違いを持っています。特に私たちの教会は精神疾患を有している方々や様々な弱さを担っている方が多いですが、その違いをプラスにしていけるような西小倉めぐみ教会という信仰共同体となれますようこれからも祈りつつ力を合わせていきたいと思っています。

皆さまのお祈り、お支えを心より感謝いたします。神さまの祝福が皆さまの上に豊かにありますよう心よりお祈り致します。 在主



2012年前半・教会のあゆみ

＜新井祐介さん受洗＞ 2012年03月11日

以前から礼拝出席され教会につながっていた新井祐介さんが、この日の礼拝の中で受洗され、一同大きな喜びをもって受け入れました。ご本人から一言…。

僕が家族に受洗すると告げた時、両親、弟たちは驚きました。受洗にあたっては僕自身迷い、悩みました。その結果まず足を踏みいれてみようと思ったのです。

僕の人生は、経済的に恵まれた家庭に生まれ育ったことがマイナスに作用する事がありました。父母との葛藤もありました。かなりお坊ちゃんに育って気力に欠ける部分がありました。そんな僕ですが、これまでの人生は自分で決めてきた自負はあります。

父の働く姿を幼い頃から間近に見ていた僕は、仕事というものは大変だなと感じていました。僕には父や弟の様な器用さはありません。一つだけ取柄をあげるなら、人との出会いに恵まれた事です。これからも一歩、一歩堅実に歩んでいきたいです。一日一日の積み重ねが将来につながると信じて。西小倉めぐみ教会の一員に加えて下さり心から感謝しています。ありがとうございます。



＜東日本大震災を覚えての礼拝と学習会＞ 3月18日

この日は、東日本大震災から1年余が過ぎ、被災地と被災者の方々を覚えて、倉橋牧師による説教「安全神話」を聴き、礼拝を守りました。

午後には、昨年10月に開かれた「さいなら原発・びわこ集会」における広瀬隆氏による講演のDVDを共に観ました。3時間近くに及びかつ迫力のある講演に圧倒されつつ、原発の危険性について認識を新たにしたところです。

当教会では、引き続き大震災を覚えての献金箱を設置し、連帯を続けたいと思います。

＜イースター特別礼拝＞ 4月8日

主の復活を心より喜び、感謝を持って礼拝を守りました。



＜教会総会＞ 4月15日

創立30周年だった2011年度を振り返り、2012年度の課題と活動について協議しました。「弱い立場に置かれている方々と共に歩む教会」「平和の希求」「伝道の輪を広げる」の3つの宣教課題と共に「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙12章15節）を今年度の目標聖句としました。併せて、一昨年から進めている宗教法人化に向けての準備を、引き続き進めていくこととしました。

＜ペンテコステ特別礼拝＞ 5月27日

神さまの豊かなお恵みを感謝しつつ、聖霊の働きが私たち一人一人の上に、また教会の働きの上に注がれますよう、祈り求めました。

＜花の日・墓前礼拝＞ 6月10日

この日は花の日礼拝を守った後、午後に、当教会の墓地において、墓地の関係の方々が集って墓前礼拝を守りました。今回は梅雨の合間の晴れ間に恵まれ、先に天に召された方々を思い起こし、神様のみもとでの平安を祈りました。

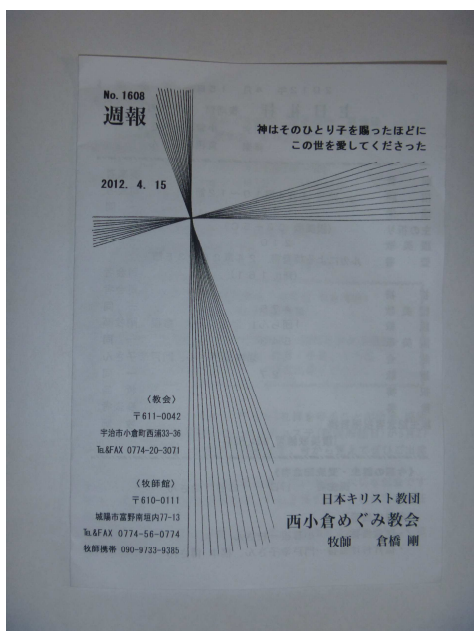
なお、当教会の墓地は、城陽霊園（京都府城陽市深谷）の一角に1997年に建設し、既に天に召された18人の方々が納骨されています。高齢者や車いすの方も車で墓地のすぐそばまで行くことができ、年2回（6・11月）関係の方々に案内をし、墓前礼拝を守っています。また、墓地に入るのは「教会員に限る」という条件を設けておらず、相談があれば役員会で協議の上、納骨をしています。



＜週報をリニューアルしました＞

この4月から、教会の週報を従来のB5版からA4版に変更し、併せて表紙のデザインを一新しました。教会員の田中晃さんがデザインされたもので、田中さんは学生時代にグラフィックデザインを勉強されていました。「このデザインは十字架を表していて、その十字架から四方へ、全体へと光が差している。その光の中に私たちが存在している。そんなイメージを描きつつ一本一本手書きで描きました。」とのこと。田中さんには、週報のサイズの変更に伴い、週報ボックスも手作りで更新していただきました。

スペースの広くなった週報には、心身の弱りや様々な事情で礼拝出席できない教会員の消息も載せ、心は共にあることを覚えています。もちろん「支える会」に全国からいただいている献金のことも、従来から載せ、感謝に覚えています。



信徒からの一言

橋本 博

昨春から3たび生活保護の仕事をしています。決して自分がふさわしいとは思わないのですが、よほどなり手が無い仕事なのでしょう。昨今の生活保護バッシングのうごきを見ると、板挟み感、追い詰められ感がつのります。それでも神様から与えられた使命ととらえて、月曜から金曜まではエネルギーを使い果たしています。そして土曜日は独居の母の世話……。合間に好きなJ-POPを聴いて生き返って……。

日曜の礼拝では、そんな1週間の神様の支えに感謝し、また新たな気持ちにリセットです。

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を賛美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年の創立以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。2005年から倉橋剛牧師を迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

不登校・ひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」や、年齢制限のない居場所「のんびり」、地域の方々と歌を通じて交流する「歌ごえ」など、ささやかながらそのような基本姿勢のもとに取り組んでいるものです。

同教会では、教会に集う人たちが自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

そのため、倉橋牧師の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、なんとか牧師家族の生活を支えてきました。同時に、教会の支出の見直しを重ねるとともに、牧師家族には様々な面で生活を切り詰めていただく等の努力をしていただいております。一方で、教区の財政状況も厳しく、現行の宣教連帯の制度も見直しを検討されているところです。

そんな厳しい状況にあっても、小さく弱い群だからこそこの教会が神様から与えられた使命を果たし続けるため、現在進めている宗教法人化の手続きを通じて教会の基盤を強化すると共に、同教会の社会的はたらきをより広く知ってもらうための発信を続けたいと思います。

そのようなこの教会のはたらきと、厳しい経済的事情にどうかご理解をいただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援をいただきたくお願い申し上げます。 2012年 6月

西小倉めぐみ教会を支える会 代表 山下茂雄（醍醐教会牧師）

今までに御献金いただいた方のお名前(敬称略・順不同) 2012.12.26～2012.6.17現在

鳴東教会 山下茂雄 君村千代子 佐藤嘉子 明石義信 市川三本松教会 田園江田教会
宇治教会 静岡草深教会 広瀬規代志 中標津伝道所 野方町教会 紫野教会 彦根教会
久保田愛策 福井達雨 武 公子 城陽教会 千葉教会 原宿教会 交野教会 川上幹太
福知山教会 洛南教会 塩尻アイオナ教会 厚木上教会 関 雅人 石川宣道 膳所教会
宿河原教会 京都丸太町教会 大阪東十三教会 清水ヶ丘教会 大野教会 聖ヶ丘教会
大泉教会 松戸教会 高槻教会 洛陽教会 同志社教会 土佐教会 八幡ぶどうの木教会
中標津伝道所「婦人の会」 高の原教会 横浜菊名教会 丹波新生教会 芦屋岩園教会
能勢口教会 南三鷹教会 堺清水橋教会 千歳教会 夙川東教会 長岡京教会 今井牧夫
田園調布教会 王子教会 水口教会 洛西教会 東京山手教会 京都教会 小郡教会
京北教会 田中 晃・千栄 西本 愛 小曾根一枝 杉本節子 橋本 博 門戸幸子
岩城澄子 倉橋 剛・容子 (119件 計 621,000円)

支える会の会計が大変逼迫しています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします

振り込み口座番号(ゆうちょ)・・・00970-2-79224 (加入者名 西小倉めぐみ教会を支える会)

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信の1号から13号までも掲載しています。是非一度ご覧ください。アドレスはwww.n-megumi.comです。

また、不登校やひきこもりがちな子ども達、若者達のフリースペース『おやすみ』のホームページもあります。アドレスはoyasumi.infoです。こちらの方も併せてよろしくお願いします。